



Art History 美術史学専修

美術史学専修では、絵画、彫刻、工芸はもとより、写真や映像、建築や庭園など、あらゆる「イメージ」を研究対象としています。作品の様式や意味についての研究、制作の背景や受容の歴史を考える研究など、その手法はさまざまです。ただし、特定の思想や先入観にひきずられることなく、あくまで作品の的確な観察に基づいた実証的研究をめざしています。

美術史学専修は、日本・東洋美術史と西洋美術史の二つの専門分野に分かれています。教授5名の専任スタッフが幅広い授業を開講しています。日本の大学では、最も充実した体制を持つ美術史研究室の一つです。

隣接の美学・文芸学、音楽学・演劇学専修、あるいは歴史や文学など他分野との連携や、海外の研究者との交流も積極的に行っています。近年はコンピュータによる画像解析、科学的調査などにも力を入れています。

<https://www.handaitobi.com/> (東洋美術史)

教員

ふじおか・ゆたか
藤岡 穰 教授
おかだ・ひろしげ
岡田裕成 教授
くわきの・こうじ
桑木野幸司 教授
かどわき・むつみ
門脇むつみ 教授
いけがみ・ひろこ
池上裕子 教授
くらた・あいこ
藏田愛子 助教

何を学んでいるの？

日本・東洋美術史

日本とアジアの美術の歴史を学びます。教員の専門は仏教美術、日本近世絵画ですが、学生の研究テーマは自由！

西洋美術史

伝統的な「西洋」の線引きにこだわってはいません。「美術」の枠のとらえ方も。驚くようなテーマに挑戦してみてください。

どんな授業があるの？

【講義題目】

日本仏像史の諸問題
狩野派絵画史
ルネサンス美術の図像解読術
戦後美術史概論

【演習題目】

見学演習 (美術館・寺社など実地見学)
絵画史論文演習
西洋美術史 研究発表と討論
建築・庭園見学演習

教員が選ぶ印象に残った卒業論文

奥高麗茶碗について

桃山時代に唐津で高麗茶碗を模して作られた茶碗を、マニアックかつ論理的に考察。(選：門脇むつみ 教授)

毎年の、限界までの努力が見える論文すべて

追い込みで徹夜を重ね、提出後丸2日寝続けたという人も。(選：岡田裕成 教授)

【卒業論文題目】

菱田春草「落葉」
——制作年代と樹葉表現について
蓮華王院本堂二十八部衆像について
シャガールの磔刑図：《白い磔刑》
17世紀オランダ絵画における働く女性像

直に作品に出会うことが第一！

東洋美術史

研究室の雰囲気

★全体的にふわふわしていますが、やる時には本気で取り組む、切り替えが素晴らしい研究室です。部屋には珈琲や紅茶のいい匂いが漂っていて、幸せな気持ちで研究することができます。不定期でパーティーが開催されるなど、ポップな一面も持ちます。(Aさん/4年)

見学演習

★毎週金曜日に、近畿圏の美術館や社寺を訪れ、様々な分野の作品を鑑賞します。実作品を前に先生方や他の学生と意見を交え、時に学芸員の方の解説を聞くなど大変勉強になると同時に遠足のような楽しさもあり、

研究室内の交流の機会としても貴重な時間です。(Sさん/博士前期課程1年)

授業について

★講義では、仏教美術や近世絵画をはじめ、様々な美術作品について詳しいお話が聞けます。演習では、史料・論文の講読や、毎週金曜日に美術館や寺社を訪れる見学演習があります。実際の作品を前に、先生方や他の学生と意見を交わす機会は貴重な経験になります。(Kさん/4年)

東美を選んだ理由

★高校生までの学習とは異なった、絵画や彫刻など実際の作品を前に実証的な研究を行う美術史の姿勢に魅

力を感じました。また、研究室の雰囲気がとても温かかったことも東美を選んだ理由です。(Kさん/4年)

★絵を描くことが好きだったので美術に関心がありました。1年生で受講した日本美術の授業が面白かったので東美に決めました。(Kさん/4年)

卒業論文について

★何万字もの文章を書きあげるのは初めての経験で、行き詰まるときもありましたが、自分が設定した一つのテーマと向き合う中で、4年間の学びで得た様々な視点を振り返ることができたと思います。(Mさん/博士前期課程2年)



「目を鍛える」授業が新鮮でした。

西洋美術史

西洋美術史研究室に入った理由

★興味を持ったきっかけは西美の先生の講義でした。ポッティチェリの《春》などの絵画にも実は寓意的な意味が隠されていることを知り、「美術史って面白い」と思うようになりました。(Sさん/博士前期課程1年)

★入学前から、絵画に興味があったことがきっかけです。また、研究室訪問の際に、先生方や先輩方の和やかな雰囲気に親しみを感じたことが決め手となりました。美術史の勉強は楽しく、西洋美術史研究室に入ってよかったと思っています。(Kさん/3年)

授業について

★西洋美術に関する基礎知識を一

から丁寧に教えてもらえます。また、ヨーロッパやアメリカ合衆国といったいかにも「西洋」らしい地域の芸術だけでなく、中南米などの芸術についても教わることもできるのも西美の魅力です。(Tさん/博士前期課程1年)

★カバーする分野が幅広いので、他の人の発表を聴いているだけでも知識の幅が広がります。ディスカッションを通して思ってもいなかった発想を得たりすることで、日々刺激を受けています。(Kさん/研究生)

西洋美術史研究室のいいところ

★先生方も先輩方もとても優しく、困ったときはすぐに助けてくれます。研究室はアットホームな雰囲気です

が、ちょうどいい距離感です。(Aさん/4年)

★研究室旅行では研究室出身の学芸員さんの案内で美術館のバックヤードを見学させていただきました。普段は入ることのできない美術館の裏側を見られるのも、美術史学専修の特権ではないでしょうか。(Oさん/3年)

大変だったこと

★留学生の私は、いわゆる横文字に苦労しました。日本語での読み方は母語での読み方とも原語での読み方とも微妙に異なるので、聞き取ったり発音したりするのがとても難しかったです。(Sさん/博士前期課程2年)